



増加するひとり暮らしの高齢者

近年、65歳以上のひとり暮らしの高齢者は、男女ともに増加しています。左のグラフが示すように、平成22年に2733人だったひとり暮らしの高齢者は10年後の今、約1600人増え、4359人となっています。

世帯数では、令和2年4月現在、高齢者のいる世帯数は12537世帯で、そのうち約35%、高齢者の3人に1人がひとり暮らしをしているという状況になっています。

また、男女別では、令和2年の内訳は男性が1090人、女性が3269人となっており、女性の割合が約73%と、圧倒的に男性よりも多くなっています。

高齢者のひとり暮らしが生む社会的孤立

内閣府の「平成30年度高齢者の住宅と生活環境に関する調査結果」によると、ひとり暮らしの高齢者の会話頻度は「毎日」が62・8%で、2人以上で住む世帯の高齢者が96%であるのに比べ低くなっています。また「何らかの社会的な活動を行っているか」の問いに対しては、ひとり暮らしの高齢者の69・7%が「社会的な活動を行っていない」と回答。「病気のときなどに頼れる人の有無」などの項目でも「ない」と答えたのは、2人以上で住む世帯の高齢者より、ひとり暮らしの高齢者が多くなっています。

このように、家族や地域の人との交流がなく、いざというときに頼る人がいない「社会的孤立」の状況に陥りやすいのは、ひとり暮らしの高齢者が多いことが推測されます。

地域で「見守る」高齢者

— 孤立を防ぐ見守りネットワーク —



▲地域に赴き、移動販売を行うグリーンコープ生活協同組合ふくおかの久間祐三さん(右)。的岡地区と宮司ヶ丘地区で、毎週水曜日に移動販売をしています。このような、事業者の取り組みの一つ一つが高齢者の「見守り」につながっています

高齢者の孤立を防ぐ見守り活動

家族や地域の人との交流がない場合、自宅などで体調を崩しても気付かれず、最悪の場合、そのまま亡くなってしまいうこともあり得ます。

このような事態を避けるため、市は、地域の福祉、医療などの関係機関、市民ボランティアなどのさまざまな活動団体と連携し、高齢者が住み慣れた地域で、安全・安心に暮らし続けることができるまちづくりを推進して

ひとり暮らしの高齢者等見守りに関する協定締結事業者

事業者	
西日本新聞エリアセンター	※市内の各販売店
毎日新聞販売店	※市内の各販売店
読売新聞読売センター	※市内の各販売店
朝日新聞 ASA	※市内の各販売店
九州電力株式会社	福岡営業所
ヴェオリア・ジェネッツ株式会社	西日本ビルメンテナンス協同組合 ※水道の検針業務委託業者
日本郵便株式会社	※市内の郵便局
株式会社セブン-イレブン	※市内のセブン-イレブン
グリーンコープ生活協同組合	ふくおか宗像支部
エフコープ生活協同組合	宗像支所
宗像タクシー協会	※福津・宗像のタクシー会社
西部ガス株式会社	
宗像農業協同組合	
公益社団法人福岡県医薬品配置協会	
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	
日本生命保険相互会社	
株式会社林田産業	
有限会社津屋崎サニタリー	

います。その取り組みの一つとして「ひとり暮らし高齢者等見守り協議会」を設置し「ひとり暮らし高齢者等見守りネットワーク事業」などを実施しています。右の表のとおり、市内外の事業所と協定を結び、各事業所が行う日常の業務の範囲で、住民に関して何らかの異変を察知した場合、市に連絡・通報する「見守り活動」を実施していきます。地域で発生する、さまざまな問題の早期発見のため、事業所の皆さんの協力は欠かせないものとなっています。

市の人口は6万6千人を超え、今もなお増え続けていますが、高齢者の人口もここ3年間で千人以上増えています。それに伴って増加しているのが、ひとり暮らしの高齢者です。ひとり暮らしの高齢者が増加する理由は、以前は2世代、3世代で同居する家庭が多かったものの、核家族化が進んでいることや、慣れ親しんだ場所から離れたくないなどさまざまです。ただ、ひとり暮らしの高齢者が増えることで、社会から孤立してしまったり、認知症が気付かぬまま進行したり、詐欺被害に遭ったりする恐れがあります。

そこで市では、市内事業者や地域の団体と手を取り合い、高齢者が住み慣れた地域で、安全に、安心して暮らし続けることができるよう、高齢者を支える「見守り」活動を行っています。

問い合わせ 市高齢者サービス課
☎43・8298

持っていますか!? 支えあいキーホルダー



高齢者が外出先で保護や緊急搬送されたとき、自分の名前や住所などが伝えられず、身元を確認できないことがあります。

「支えあいキーホルダー」には、個人ごとに割り当てられた登録番号と緊急時の問い合わせ先が記入されており、日頃から身に付けておくことで身元が確認しやすくなります。

キーホルダーを取得するには、緊急連絡先などの登録が必要です。詳しくは市高齢者サービス課もしくは各地域の民生委員に気軽にお尋ねください。



006400
緊急時は、下記にご連絡ください。
福津市ひとり暮らし高齢者等見守り協議会
☎0940-43-8190
▲見守りシールのイメージ

気になることがあれば市高齢者
サービス課にご連絡ください
☎43・8298

市の高齢化率は、今年4月1日現在で27・7%を超えています。より多くの見守りの目が必要とされており、見守り協定を結んでいる事業所だけでなく、

地域ぐるみで 高齢者を見守る

の、市役所職員をかたって信用させたり、新型コロナウイルス感染症に便乗して、給付金などの金銭的な支援と見せかけたりする巧妙な手口が増加しています。今後も新たな手口が次々と現れる可能性がありますので「電話でお金のお話は全て詐欺」だと肝に銘じましょう。

住民同士の見守りも必要です。地域の推薦を受けて活動する民生委員の皆さんは、ひとり暮らしの高齢者の身近な相談相手として、とても重要な役割を担っています。また、地域包括支援センターも高齢者が安心して暮らすことができるよう支援しています。事業者や民生委員の皆さんから得た情報を受け、本人の生活状況を確認。必要に応じて、受診を勧めたり、人と交流ができる介護予防につながる場所の提案を行ったりしています。

地域包括支援センターだけでは手が届かない場面はどうしても増えてくるので、地域ぐるみで高齢者を見守ることが大切です。

「地域とのつながり」が 「見守り」に

ひとり暮らしの高齢者のかたの中には、一人で暮らすことに慣れており「自分で何とかできる」「まだ大丈夫だろう」と考える人もいます。ただ、病気が知らず知らずのうちに進行し、自分では異変に気付くことができないかもしれせん。例えば、高齢になると暑いと感じる機能が低下し、喉の渇きを

ひとり暮らしの高齢者の自宅に市から委託されたという業者から電話があり「ひとり暮らしの高齢者に市から特別給付金が支給されます。手続きを代行するので通帳を用意してください」と言われたそうです。不審に思い、市消費生活相談室に相談したので難は逃れられたもの

ひとり暮らしの高齢者等見守り協議会は消費者安全確保地域協議会を兼ねており、消費者トラブルから高齢者を守る役割も担っています。消費者トラブルの多くは、高齢者を標的とした電話による詐欺や悪質な訪問販売です。悪質業者は言葉巧みに高齢者の不安をあり、親切にして信用させ、大切な財産を狙っています。ひとり暮らしの高齢者は自宅にいることが多く、周囲に相談できる人がいないことが多いため、特にこのような消費者トラブルに巻き込まれやすくなります。実際に、市消費生活相談室には、ひとり暮らしの高齢者から次のような相談が寄せられています。

ひとり暮らしの高齢者は 消費者トラブルに注意

地域の「見守り」が救った命 人とのつながりが「見守り」になる

平成30年8月、セブン-イレブン福間海岸通り店の近くに住む93歳のひとり暮らしの女性が同店に買い物に行き、店の近くで転倒しました。通りがかりの高校生が店に知らせ、店員が「近くに住むひとり暮らしの高齢者」と把握していたこともあり、迅速な対応によって、その女性は搬送先の病院で治療を受けることができました。この件だけでなく、平成30年の春、夕食を宅配している92歳の男性の元気がないと店のオーナーである高橋新一郎さんが地域の民生委員に連絡。民生委員が訪問すると肩を息をする状態だったので119番通報し、福岡東医療センターへ搬送したところ、腸に穴が空いており、緊急手術をすることになりました。高橋さんの「見守り」が命を救うきっかけになったのです。

セブン-イレブンと市は見守り協定を結んでいます。平成21年11月からは商品の宅配を始め、宅配で訪問または来店した高齢者には、地域のささえ合いの一環として営業活動をしながら「目配り」「気配り」をしています。商品を宅配する際は、手渡しを原則として「特に意識することなく、当たり前のように、お客さんの顔を見て健康状態を確認している」と店長の野上美香さんは話します。それは野上さんだけでなく、店員の皆さんにも浸透しており、時折店に来る高齢の女性が、

「何か様子がおかしい」とアルバイトの店員が異変に気付いたそうです。普段から店員の皆さんが「来店者への気遣いは当たり前」という対応をしていることが、高齢者の「見守り」につながっていました。副店長の福田理砂さんは「これまで、地域に密着した店としてやってきたが、特に高齢のお客さんが来店したときにいろいろな話をしてくれるようになった。そうやって人とつながることが「見守り」になり、安心な地域づくりにつながるのではないかと見守りへの思いを語ってくれました。



◀福田副店長



▶野上店長